

千葉県立中央博物館リニューアル基本計画骨子案



千葉県立中央博リニューアル基本計画骨子案について

1. 計画策定の背景

1-1. 計画策定の趣旨

1-2. 県立博物館の概要

1-3. 背景

1-4. 現状と課題

1-5. これからの県立博物館

1-6. これからの中央博物館

2. 計画の内容

2-1. 計画の構成

2-2. 基本理念

2-3. 目指す姿

2-4. 取組の方向性と事業目標

1-1. 計画策定の趣旨

千葉県では「千葉県の博物館設置構想(昭和48年)」に基づき、資料保護と県民の文化的生活の向上を目的として、複数の地域館と総合センターとなる中央博物館を整備し、平成11年度までに県内各地に10館1分館を設置した。その後、県内においても市町村立博物館の整備が進み、県立博物館が地域の博物館として果たす役割が相対的に減少したことから県立博物館の再編及び市町村移譲等を検討し、現在（令和5年）は、5館8施設を運営している。

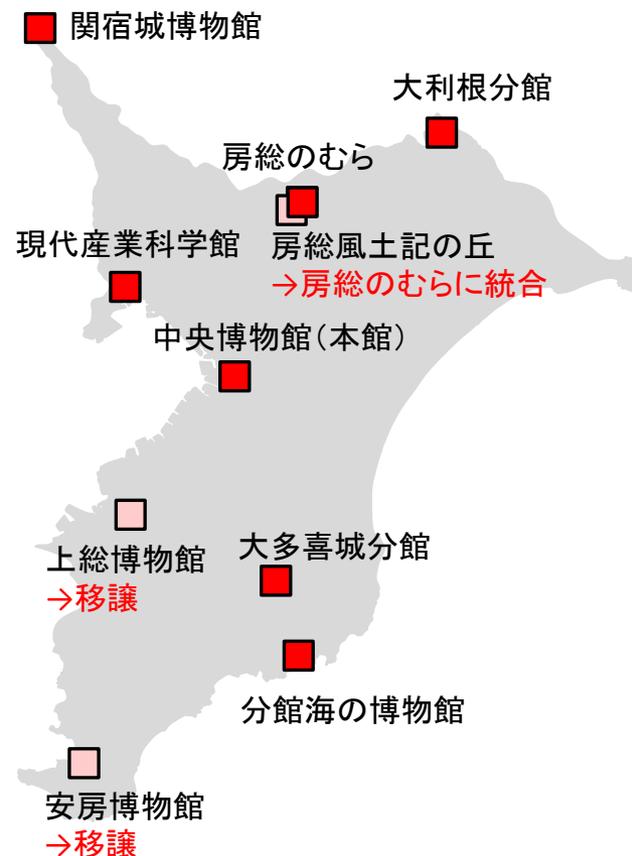
近年では、生涯学習社会の進展等から利用者ニーズが多様化しており、博物館はこれまでの役割に加え、調査・研究の充実、情報発信・参加型事業及び地域や観光振興への貢献が求められるようになった。そこで、全県域を俯瞰する3館4施設（美術館、房総のむら、中央博物館（本館、分館海の博物館））の機能強化を図り、中央博物館には専門職員と博物館資料を集約する方針を定め（県立博物館の今後の在り方（令和2年））、令和5年3月には千葉県立中央博物館機能強化実施方策を整理した。

これを踏まえ、機能を集約・強化する中央博物館の今後の運営の基本方針となる本計画を策定する。

1-2. 千葉県立博物館の概要

千葉県は、地域の特性を活かした専門性を有する地域博物館（以後、地域館）と総合センターとなる中央博物館を設置しています。

名称	テーマ	現状と今後
上総博物館 (現:木更津市郷土博物館)	・くらしのなかの技術 (県立館当時のテーマ)	平成20年に 木更津市へ移譲
安房博物館 (現:渚の駅たてやま)	・房総の海と生活 (県立館当時のテーマ)	平成21年に 館山市へ移譲
房総のむら (平成16年に房総風土記 の丘と統合)	・房総地方の伝統的な技術 や生活様式の実演と体験 ・龍角寺古墳群と考古資料	機能強化
中央博物館(本館)	・自然誌を中心とし、歴史も 加えた総合博物館	機能集約・強化
大多喜城分館 (旧総南博物館)	・房総の城と城下町	中央博物館本館へ 機能集約
大利根分館 (旧大利根博物館)	・利根川下流域の歴史・民俗・自然、千葉県の農業	中央博物館本館へ 機能集約
分館海の博物館	・房総の海の自然	機能強化
現代産業科学館	・産業に応用された科学技術 を体験的に学ぶ	地元自治体等と協議し、在り方を検討
関宿城博物館	・河川と歴史に係る産業、関宿藩の歴史	地元自治体等と協議し、在り方を検討



1-3. 背景

(1) 社会情勢の変化

- 【人口減少】 担い手の減少、地域文化等の衰退
- 【少子高齢化】 担い手の減少、求められる役割の増加
- 【災害等対応するべきリスクの増加】 支援・救済体制の構築・強化が必要
- 【価値観、ライフスタイルの多様化】 多様性に対応した取組みが必要
- 【デジタル化の進展】 デジタル技術等を活用した活動の展開

(2) 県立博物館を取り巻く環境の変化

- 【市町村立博物館の増加】 県内において、人文系を扱う市町村立館が増加し、地域で県立館に求められる役割が市町村立館との連携や支援に変化
- 【学びの多様化】 生涯学習社会の進展

(3) 博物館法の改正(令和5年4月)

- ・ 博物館法の改正により社会教育法に加えて文化芸術基本法の本質に基づくことが定義され、博物館事業（【1】収集・保管、【2】調査・研究、【3】展示・教育普及）に以下が努力義務として追加された

地域連携

他機関との連携や支援を行うこと

地域振興

地域における学術および文化の振興、文化観光等へ貢献すること

デジタル

博物館資料のデジタルアーカイブ化を強化すること

1-3. 背景

(4) 千葉県立博物館の今後の方針検討の経緯

●千葉県立博物館の今後の在り方（令和2年9月策定）

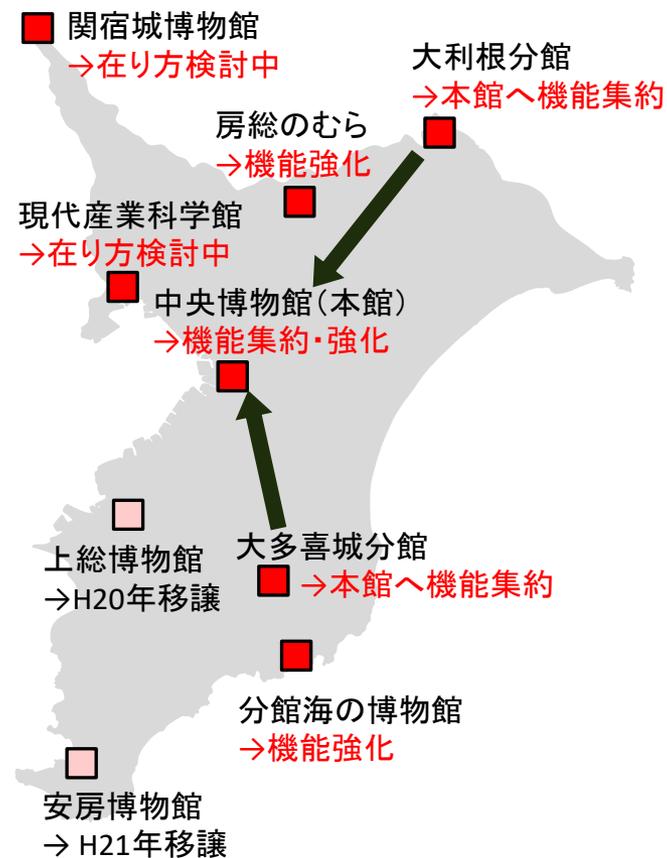
今後の県立博物館の役割や方針について整理

- ・全県域を俯瞰した資料収集・保管、調査・研究、教育・普及等を行うとともに、県の魅力、県民の誇りとなるような文化・自然等の発信・紹介に努める。
- ・全県域を俯瞰する3館4施設（美術館、房総のむら、中央博物館（本館、分館海の博物館））の機能を強化し、専門職員と博物館資料を中央博物館に集約する。

●千葉県立中央博物館機能強化実施方策（令和5年3月策定）

「千葉県立博物館の今後の在り方」に基づき、中央博物館の強化すべき機能を次の3つに整理

- ①総合博物館としての高度化
- ②地域連携ステーション
- ③アーカイブセンター



1-4. 県立博物館の現状と課題(従来の博物館事業)

	現状	社会情勢の変化により求められるもの	課題
【1】 収集・保管	<p><できたこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然系資料を中心に約126万点を収集(R5.10時点) ・約126万点のうち、約5万点は、地域館が人文系を中心に各館のテーマや各地域に沿って資料を収集(R5.10時点) ・研究、展示、イベント等で収蔵資料を活用 <p><できなかったこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切な収蔵環境や標本作成環境が不十分 ・収容能力のほぼ上限に達しているが、新たなスペースが確保できていない ・過去に再編成・移譲した人文系博物館の成果が継承されていない ・現在は、全県的視点での人文系資料収集が不十分 ・収集の成果が県民に十分に還元されていない 	<p>【人口減少】【少子高齢化】 →・地域文化等の記録保存 ・地域(個人や学校等)で所有しきれなくなった資料の継承</p> <p>【人文系市町村立館の増加】 →・市町村立博物館と県立館との役割分担の明確化</p>	<p><継続・拡充すること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然系資料収集の継続 ・集約される地域館のテーマ等を引き継いだ資料収集の継続 ・収蔵資料を活用した活動の継続 <p><新たに取り組むこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・標本製作室や燻蒸設備等の関連施設の整備 ・収蔵スペースの確保 ・各地域館の収蔵資料の継承 ・収集方針見直し、収集計画立案 ・収蔵資料のデジタル化等も推進し、収集成果を県民へ幅広く還元
【2】 調査研究	<p><できたこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央博本館では、千葉を対象にした地域研究を継続して実施 ・地域館では、各館のテーマおよび各地域に根差した活動を実施し、地元住民と共に多くの成果を蓄積 ・県域を俯瞰した視点で自然系の研究を実施 ・中央博は、外部資金等を活用し、幅広いテーマの研究を実施(科学研究費助成金の研究機関に指定) ・国内外の機関・研究者との共同研究等の実施 ・県民との共同研究等の実施 ・調査研究の成果は論文や学会等で発表し、科学の発展寄与するとともに、展示や行事等で県民に広く還元 <p><できなかったこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期的・組織的視点での研究計画が未策定 ・県域を俯瞰した視点での人文系の活動は不十分 ・多くの研究備品や設備が未更新 ・研究成果の発信が十分とはいえない 	<p>【学びの多様化】 →・専門分野の追究と多様化</p> <p>【人文系市町村立館の増加】 →・市町村立博物館と県立館との役割分担の明確化</p>	<p><継続・拡充すること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域研究の継続 ・集約される地域館のこれまでの活動の引継ぎ・実施 ・県域を俯瞰した視点での自然系の活動の継続 ・外部資金等を活用した研究活動の継続 ・国内外の多様な機関・研究者との共同研究の継続 ・県民との共同研究等の継続 ・活発な調査研究の推進による科学の発展に寄与 ・県民への成果還元の継続 <p><新たに取り組むこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期的・組織的研究計画の策定、評価制度の見直し ・全県的な人文系研究活動の実施・体制の確立 ・長期的・組織的研究計画に沿った研究備品と設備更新 ・外部資金を含む研究資金の確保 ・県民に向けて研究成果をわかりやすく、迅速に還元

1-4. 県立博物館の現状と課題(従来の博物館事業)

	現状	社会情勢の変化により求められるもの	課題
【3】 展 示 ・ 教 育 普 及	<p><できたこと></p> <ul style="list-style-type: none"> 各館それぞれの研究成果、資料収集成果を活かした幅広いテーマの企画展や行事を実施 職員の専門を活かしたオリジナリティが高く、多分野にわたる展示や行事(年間100回以上)の実施 自然や歴史・文化の理解をより深めるため、フィールドを意識した活動(生態園の併設、フィールドミュージアム等)の展開 独自の学習キット作成や学習プログラムの実施 学校教育支援(授業での博物館利用等) <p><できなかったこと></p> <ul style="list-style-type: none"> 常設展示の展示更新ができなかったため、内容が陳腐化 常設展示は、解説員が説明する前提で作られたため、内容が伝わりにくい(解説員は人員削減) 県民参画型の活動の縮小(中央博は友の会解散、ボランティアの高齢化等) 県立博物館に行ったことがない県民が少なくない 見やすい展示什器の整備や多言語化など多様化するニーズへの対応が不十分 	<p>【価値観・ライフスタイルの変化】</p> <p>【学びの多様化】</p> <p>→ 最新情報を取り入れ、多角的な視点で活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 県民参画型活動の充実 多様性に対応した取組みの拡充 <p>【少子高齢化】</p> <p>→ 学校教育支援の充実</p>	<p><継続・拡充すること></p> <ul style="list-style-type: none"> 幅広いテーマの企画展や行事を実施 職員の専門性を活かした様々な分野のオリジナリティの高い展示や行事を実施 フィールドを意識した活動の継続(生態園やフィールドミュージアム活動等) 独自の学習キット作成や学習プログラムの実施 学校教育支援の継続 <p><新たに取組むこと></p> <ul style="list-style-type: none"> 更新しやすい展示環境を整備 時事的話題や県民ニーズに応える展示も実施 中央博は生態園を含めた常設展示を更新 わかりやすく、楽しく学べる展示の実現 県民参画型の活動の活性化 情報発信方法の見直し 教員向けの事業や時事的話題に即応した情報提供 IT技術等も活用した情報提供 誰でも楽しめる展示等の実施

1-4. 県立博物館の現状と課題（法改正による努力義務）

	現状	社会情勢の変化により求められるもの	課題
地域連携	<p><できたこと></p> <ul style="list-style-type: none"> 千葉県博物館資料救済ネットワークの拠点 被災した他館の資料救済を実施 巡回展等の実施 多様な主体（図書館や商業施設等）との連携事業の実施 <p><できなかったこと></p> <ul style="list-style-type: none"> 千葉県博物館協会等によるネットワークはあるものの、市町村立館との連携・支援体制は不十分 単発的な連携事業も少なくない 	<p>【博物館法の改正】 【市町村立館の増加】 →県内ネットワークの強化</p> <p>【対応するべきリスクの増加】 →災害時等の資料救済体制の確立</p> <p>【価値観・ライフスタイルの変化】 →これまでにない主体との連携</p>	<p><継続・拡充すること></p> <ul style="list-style-type: none"> 千葉県博物館資料救済ネットワークの拠点 被災した他館の資料救済を実施 巡回展等の実施 多様な主体との連携事業の継続 <p><新たに取り組むこと></p> <ul style="list-style-type: none"> 市町村立博物館への支援体制の整備 施設整備を含めた災害時資料救済体制の確立 新たな機関との連携等を検討し、連携体制を確立
文化観光・地域振興	<p><できたこと></p> <ul style="list-style-type: none"> 調査研究により地域の文化等を発見 収集した地域の資料の活用、展示や行事により地域の文化等を発信 フィールドを活用した行事等により地域の文化等に触れる機会の提供 立地する周辺地域やフィールドミュージアム活動地域と連携 <p><できなかったこと></p> <ul style="list-style-type: none"> 県の資源を活用し、魅力を発信するフィールドミュージアムの活動内容について、統制がとれていない 千葉の文化観光の拠点 	<p>【博物館法の改正】 【人口減少】【少子高齢化】 →地域資源の活用・継承支援 ・文化観光の拠点としての役割</p> <p>【価値観・ライフスタイル】 →文化観光の拠点としての役割 ・多様性に対応した取組みの拡充</p>	<p><継続・拡充すること></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の文化等の調査研究の継続 地域の文化等を発信するため、資料収集、展示、行事等を実施 フィールドを活用した行事により地域の文化等を紹介 立地する周辺地域やフィールドミュージアム活動地域と連携 <p><新たに取り組むこと></p> <ul style="list-style-type: none"> 連携・支援地域を全県に拡大し、文化観光・地域振興に貢献 フィールドミュージアム活動の内容の見直し 誰もが楽しむことができる千葉の文化観光の拠点
デジタル化	<p><できたこと></p> <ul style="list-style-type: none"> 収蔵資料データベースの作成・公開 デジタルコンテンツ（デジタルミュージアム、メールマガジンの配信）の作成 <p><できなかったこと></p> <ul style="list-style-type: none"> 博物館事業における最新技術の導入 	<p>【博物館法の改正】 【デジタル化の推進】</p>	<p><継続・拡充すること></p> <ul style="list-style-type: none"> 収蔵資料データベースの作成・公開 デジタルコンテンツ（デジタルミュージアム、メールマガジンの配信等）の拡充 <p><新たに取り組むこと></p> <ul style="list-style-type: none"> 博物館事業におけるデジタル技術やIT技術の活用 あらゆる人が千葉の魅力に触れられる環境を確立

1-4. 県立博物館の現状と課題(運営・体制)

	現状	社会情勢の変化により求められるもの	課題
運営・体制	<p><できたこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な専門分野の職員が在籍し、多様なニーズに対応(国内有数の専門職員数) ・千葉県博物館資料救済ネットワークの拠点 <p><できなかったこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職員の年齢等に偏りがある ・事務系職員の不足 ・業務が「個人」に紐付きがち ・各職員の専門性を活かしきれていない ・過去に再編成・移譲した人文系博物館の機能が集約されていない ・施設の老朽化等によるサービスの低下 	 	<p><継続・拡充すること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様なニーズに対応できる体制の維持 ・千葉県内の博物館活動のネットワークの拠点を目指す <p><新たに取り組むこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門性が高く、多様な人材育成を目的とした研修等の実施 ・運営方針を見直し、組織として業務を推進(長期計画策定, PDCAサイクル) ・適材適所な人事配置 ・全分野のバランスのとれた組織体制 ・これまでの県立博物館の活動成果の継承 ・施設整備計画の策定

1-5. これからの県立博物館

社会情勢の変化や現状と課題を踏まえ、これからの県立博物館の役割および方向性を次のとおり整理します。

●県立博物館の役割【在り方より】

千葉県 naturally や歴史・文化を守り、伝え、新たな知見を創造し、情報を発信。
この活動をとおして人材を育成し、県民の学習および地域づくりを支援。

●県立博物館の方向性

【これまでと変わらず、大切にしたいポイント（博物館設置構想等）】

- 各種資料を収集・研究し、県民の利用に供することで、文化的向上に資すること
- 県域を俯瞰した博物館ネットワークを確立し、全県民が博物館を活用できるようにすること
- 博物館と現地をつなげること（フィールド活動）

【改正博物館法への対応】

- 従来の3つの事業（【1】収集・保管、【2】調査・研究、【3】展示・教育普及）を根幹としつつ、3つの視点（地域連携、文化観光・地域振興、資料のデジタル化）をより意識した活動を展開



1-6. これからの中央博物館

地域館の機能を集約し、強化していく中央博物館について
これからの基本的な方向性を次のとおり整理します。

●中央博の位置づけの変化と機能

【位置づけ】地域館の機能、人員、資料を集約して人文系の強化を図ると共に、従来の自然系活動の優れた部分を活かした活動を展開

【機能】これまでの機能を維持しつつ、以下の機能を強化

- ①総合博物館としての高度化(自然系・人文系共に強く、両者が連携した活動の展開)
- ②地域連携ステーション (県内博物館の拠点となり、地域連携や地域振興に貢献)
- ③アーカイブセンター (資料のデジタル化の促進や県立館所蔵資料の一元管理の実現)

●中央博のテーマと役割

【テーマ】「自然と歴史(中央博HP使命より抜粋)」から「自然と歴史、文化」へ

これからの中央博は、地域館(過去に移譲した館を含む)が主に担ってきた人文系機能を集約し、総合博物館としての機能を強めるため、従来のテーマである「自然」と「歴史」に、その土地の自然と歴史によって紡がれる「文化」も追加。

【役割】千葉の県立総合博物館(自然と歴史、文化を扱う博物館)

以下、県立館の役割詳細【在り方】

- ・調査・研究を基に新たな資料の価値を発見し、千葉県の自然や歴史・文化に関する資料を収集・保存して、後世に伝える。
- ・資料や調査・研究の成果を知的資産として蓄積し、その情報を発信することによって県民と共有し、文化および科学の発展に寄与。
- ・県民に専門性や体験を重視した生涯学習の機会を提供し、自然や歴史・文化を愛する人材を育成。
- ・博物館は地域の核となって、まちづくり、地域文化振興、地域おこしといった地域づくりを支援。
- ・県の良さ・魅力を伝える、県民の郷土への愛着と誇りを育む。
- ・全県域を俯瞰した資料の収集、展示、教育普及、情報発信を進め、市町村立博物館等を支援。



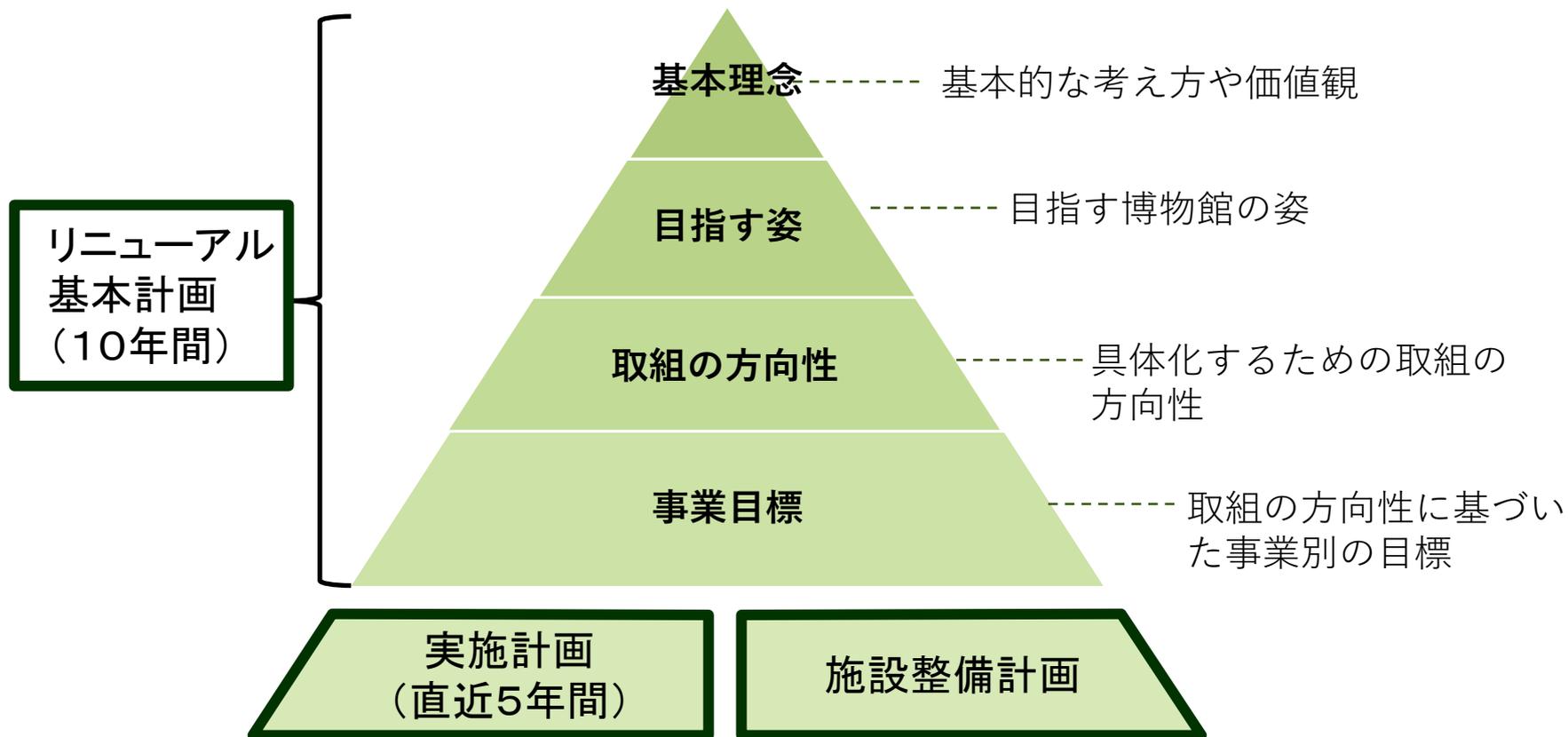
●中央博の活動の特色

以下の中央博の特色を引き続き活かして、活動を展開する。

- ①国内有数規模の多彩な専門性をもつ総合博物館
- ②千葉県の中核となる博物館
- ③現地の自然や歴史、文化と強く結びついた活動(=フィールド活動)を大切にする博物館

2-1. 計画の構成

これまで整理した中央博物館の基本的な方向性を基に、リニューアル基本計画を策定する。基本計画は、「基本理念」、「目指す姿」、「取組の方向性」、「事業目標」の4項目について整理する。また、リニューアル基本計画を踏まえ、博物館の具体的な取組について整理した実施計画（直近5年間）と、施設整備計画を併せて策定する。



2-2. 基本理念

千葉県県の立総合博物館（自然と歴史、文化を扱う博物館）としての役割を果たすため、以下の3つを基本理念とします。

千葉の魅力を 見つけ、伝え、残す

- 四方を海と川に囲まれ、半島独自の地形に育まれた千葉の自然と歴史・文化を研究し、魅力を見つめる
- 海と空の玄関でもある千葉の特性を活かし、様々な主体とつながりながら、千葉の魅力を国内外に発信し、後世に伝える
- 千葉の自然と歴史・文化に対する県民の愛着や誇りを醸成し、次世代の千葉の自然・文化の担い手育成を支援する

多彩な 「おもしろい」を 届ける

- 中央博の多彩な専門性を活かし、自然科学・人文科学の「おもしろい」を届ける
- デジタル技術の活用や様々な主体との連携等により、いつでもどこでも誰でも「おもしろい」にふれられる環境をつくる
- 最先端の視点で活動し、科学の発展に寄与・国内外の博物館を牽引するとともに、時事的話題や県民ニーズに即応し、県民の学びに応える

ホンモノを 大切にする

- 資料やフィールド（現地の自然や歴史、文化そのもの）といった本物を大切に、常に当事者として活動する
- 様々な主体とつながりながら、フィールドや資料で本物の自然や歴史、文化を体感できる機会を提供する
- 県民はもとより国内外の利用者と本物（フィールドや資料）をつなぐ役割を果たす

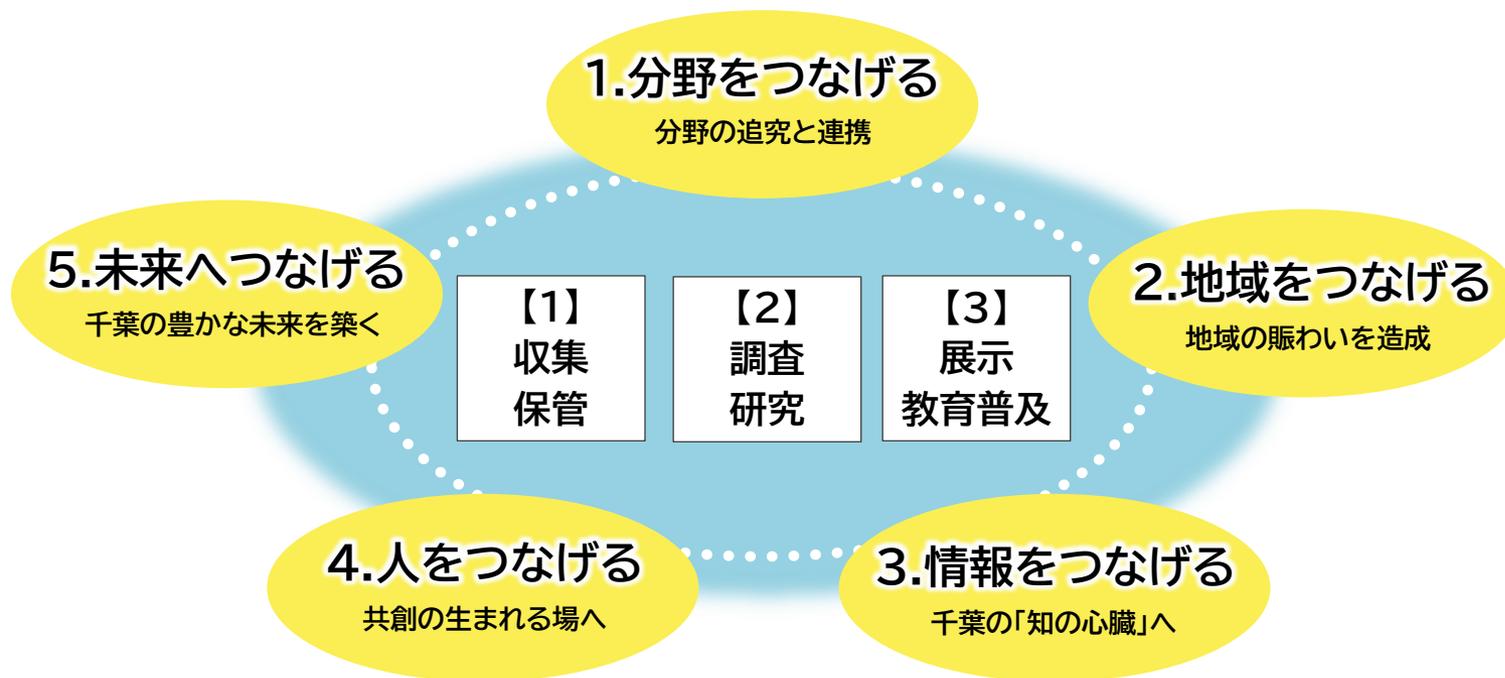
千葉ならではの資源や主体をつなぎ、
県民とともに千葉の未来を創る博物館へ

2-3. 目指す姿

「つながり」のプラットフォーム

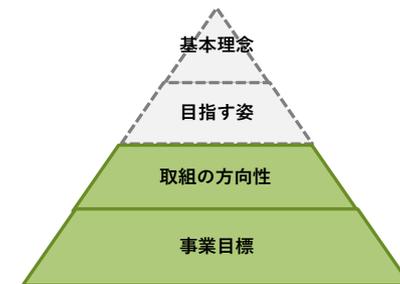


千葉ならではの資源、博物館・教育研究機関・自治体・民間企業等の多様な主体をつなぎ、
県民の文化水準の向上および郷土意識の醸成を図るとともに、
千葉の未来を創っていく基盤となる場“プラットフォーム”としての役割を実現



2-4.取組の方向性と事業目標

【1】収集・保管



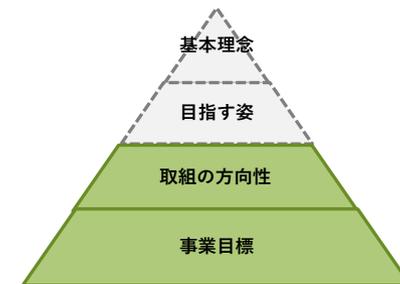
取組の方向性

事業目標(10年間)

1	分野をつなげる ①自然科学、人文科学及び両分野が連携した視点での活動 ②広域的な視点での活動	①自然科学、人文科学等個別分野の資料に加えて、双方の研究に関連した資料をも収集・保管 ①現在収集されていない資料について、多分野の視点で情報を共有 連携 ②特定の分野や県域にとらわれず、県として保存すべき資料を収集 振興
2	地域をつなげる ①県域を俯瞰した活動 ②他機関との連携・支援 ③博物館（公立・私立）と地域（県民・大学等）をつなげる	①県域を俯瞰した視点での資料収集保管 振興 ②非常時の文化財・博物館資料の救済の実施、収蔵資料の貸出強化 連携 ③県の施設の資料情報を一元管理するとともに、 連携 デジタル 資料情報の集約による新たな地域資源を把握 振興
3	情報をつなげる ①成果の迅速な公開・発信 ②千葉の魅力にふれる環境づくり ③資料情報の一元化	①デジタル化による文化資源情報の充実 デジタル ①外部システム（研究者間資料情報共有システム等）との連携 連携 デジタル ②収蔵資料の学術的・文化的価値の情報発信の充実 振興 デジタル ③県の施設の資料情報の収集・管理 連携 デジタル
4	人をつなげる ①県民参加・協働型の活動 ②県民ニーズへの対応 ③新たな協働を生む仕組み作り	①資料収集の県民参画の機会の提供、市民団体等との協力 連携 ②県民にとって財産となる資料の収集 振興 ②個人（団体）の所蔵資料の情報収集と受入体制の強化 連携 ③学術価値の高い資料の収集
5	未来へつなげる ①これまでの成果の活用・継承 ②長期的な視点での活動 ③人材育成	①収蔵資料の確実な管理、寄贈・寄託資料の受入れ 連携 デジタル ②中長期計画の整備、継続的な収集を踏まえた収蔵スペースの確保 ②コレクションポリシーに基づく資料収集 ③職員の資料管理等専門知識の習得、引継計画の立案

2-4.取組の方向性と事業目標

【2】調査・研究



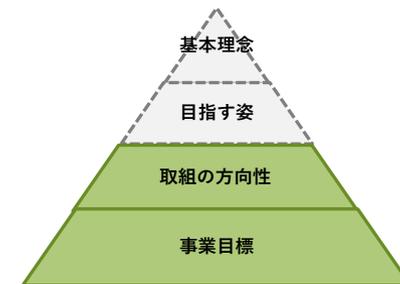
取組の方向性

事業目標(10年間)

1	分野をつなげる ①自然科学、人文科学及び両分野が連携した視点での活動 ②広域的な視点での活動	➔	①自然科学、人文科学及び両分野の連携による研究機能の強化 連携 ②専門領域を超えた広域的・国際的な研究テーマの立案 連携 振興
2	地域をつなげる ①県域を俯瞰した活動 ②他機関との連携・支援 ③博物館（公立・私立）と地域（県民・大学等）をつなげる	➔	①県域を俯瞰した視点での調査研究及び関連地域との比較研究等を実施するとともに、各地域の新たな魅力を創造 振興 ②、③共同研究等の実施 連携
3	情報をつなげる ①成果の迅速な公開・発信 ②千葉の魅力にふれる環境づくり ③資料情報の一元化	➔	①研究成果の発信・還元機能の強化（報告書や論文のデジタル化等） デジタル ②レファレンスサービスの強化、文化資源情報の充実 振興 デジタル ③資料情報の有用性を高める最新技術・事例の調査
4	人をつなげる ①県民参加・協働型の活動 ②県民ニーズへの対応 ③新たな協働を生む仕組み作り	➔	①県民参加・協働型の研究 連携 ②レファレンスサービスの強化 振興 デジタル ③県内外の研究機関等との共同を生む専門性の高い研究の実施 連携 ③共同研究（市町村立博物館職員等も参加可能な公募型等の研究）の実施 連携
5	未来へつなげる ①これまでの成果の活用・継承 ②長期的な視点での活動 ③人材育成	➔	①これまでの研究成果の整理・公開 振興 デジタル ②最先端の視点を踏まえた中長期計画の整備 ③職員の専門技術の向上、研修等への積極的な参加、引継計画の立案

2-4.取組の方向性と事業目標

【3】展示・教育普及



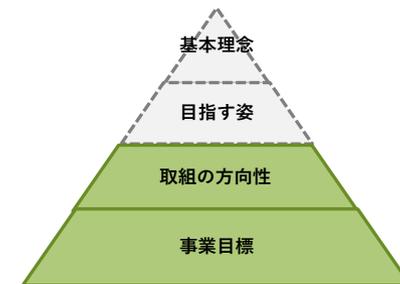
取組の方向性

事業目標(10年間)

1	分野をつなげる ①自然科学、人文科学及び両分野が連携した視点での活動 ②広域的な視点での活動	①人文系の充実、充実した自然系の強みを活かした展示や講座の実施 両分野が連携した総合的視点の展示や講座の実施 連携 ①自然と歴史、文化を五感で体感できる活動の実施 連携 振興 (生態園やフィールドミュージアム等) ②専門領域を超えた広域的・国際的なテーマの展示や講座 連携 振興
2	地域をつなげる ①県域を俯瞰した活動 ②他機関との連携・支援 ③博物館(公立・私立)と地域(県民・大学等)をつなげる	①県内各地の文化を紹介する展示や、県内各地に足を運ぶきっかけとなる講座の立案 振興 ②、③巡回展示、出前展示・行事の実施 連携 振興 ③他館と合同、共催の展示や行事の立案・実施 連携 振興
3	情報をつなげる ①成果の迅速な公開・発信 ②千葉の魅力にふれる環境づくり ③資料情報の一元化	①、②研究や資料収集の成果の情報を迅速に発信(デジタルアーカイブ等) デジタル ①、②誰もが楽しめる魅力的な展示や講座、ウェブコンテンツの充実 デジタル 県内博物館ネットワークを活用した情報発信 連携 振興 ③県の施設の資料情報を誰もが気軽に利用できるような形で公開 連携 デジタル
4	人をつなげる ①県民参加・協働型の活動 ②県民ニーズへの対応 ③新たな協働を生む仕組み作り	①県民参加・協働型活動の活動の展開(フィールドミュージアム等) 連携 振興 ②時事的話題や県民ニーズに即応した展示の充実 振興 ②誰もが楽しめる魅力的な展示や講座等の実施 振興 ③専門性の高い展示、誰もが楽しめる魅力的な展示や講座等の実施 連携 振興 ③国内外の人材や施設を繋ぐ活動(学芸員と県民、県民同士等) 連携 振興
5	未来へつなげる ①これまでの成果の活用・継承 ②長期的な視点での活動 ③人材育成	①収集資料や研究成果を活用した展示や行事、各地域の魅力の発信 振興 ②中長期計画の整備, ③職員の普及・展示技術の習得と共有、未来を考えるきっかけになる事業の実施 ③次世代の学びに応える活動、地域のコアとなる人材育成支援 連携 振興

2-4.取組の方向性と事業目標

運営・体制



取組の方向性

事業目標(10年間)

1	分野をつなげる ①自然科学、人文科学及び両分野が連携した視点での活動 ②広域的な視点での活動	➔	①様々な専門分野に横断的に対応できるような体制作り ②大学や企業等との幅広い分野での連携、MLA連携（隣接予定の複合施設との連携）体制の確立 連携 振興 ②博物館事業のDX化の推進 デジタル
2	地域をつなげる ①県域を俯瞰した活動 ②他機関との連携・支援 ③博物館（公立・私立）と地域（県民・大学等）をつなげる	➔	①県内博物館のネットワークの拠点となる 連携 振興 ②大学や企業等との幅広い分野での連携、MLA連携（隣接予定の複合施設との連携）体制の確立【再掲】 連携 振興 ③複数機関と同時連携等 連携 ③学校や社会教育施設との連携、県民や企業等との協力体制の構築 連携
3	情報をつなげる ①成果の迅速な公開・発信 ②千葉の魅力にふれる環境づくり ③資料情報の一元化	➔	①文化資源情報充実、デジタルアーカイブ強化 デジタル ②博物館と県民等がつながりやすい環境づくり 連携 振興 デジタル （情報共有サービスの向上、オンラインツールの活用等） ③県内の他機関との情報共有のための連携体制の構築 連携
4	人をつなげる ①県民参加・協働型の活動 ②県民ニーズへの対応 ③新たな協働を生む仕組み作り	➔	①県民からの情報提供ツールの開発 デジタル ①、②、③ボランティアや市民研究員制度等の拡充、市民団体等との連携 連携 ②、③誰もが利用できるアクセシビリティの向上（情報共有サービス向上等） デジタル ③国際交流も視野にいれた連携体制の整備 連携
5	未来へつなげる ①これまでの成果の活用・継承 ②長期的な視点での活動 ③人材育成	➔	①施設の整備（老朽化した施設の改修、防災・防虫機能の高い収蔵庫等の充実等） ②非常時の文化財・博物館資料の救済体制の構築 連携 ②社会情勢の変化に対応できる展示設備（可変性が高く、柔軟性のある設備へ改修等） ③多様な職員育成を含む持続的な運営体制の確立、市町村立館等への支援 連携